



企業社会責任ブルーブック

BLUE BOOK OF CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

中国企業社会責任 研究報告 2012

RESEARCH REPORT ON
CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY
OF CHINA 2012

中国社会科学院社会責任研究センター

陳佳貴 黃群慧 彭華崗 鍾宏武 等 / 著作

張 蕙 孫孝文 許英傑 李國祥 等 / データ分析



社会科学文献出版社
SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA)

2012
日本語特別版

企業社会責任ブルーブック (日本語特別版)

BLUE BOOK OF CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

中国企業社会責任 研究報告 2012

RESEARCH REPORT ON CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY OF CHINA 2012

中国社会科学院社会責任研究センター

陳佳貴 黃群慧 彭華崗 鍾宏武 等 / 著作

張 蕊 孫孝文 許英傑 李國祥 等 / データ分析



社会科学文献出版社
SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA)

图书在版编目(CIP)数据

中国企业社会责任研究报告. 2012: 日文/陈佳贵等著. —北京: 社会科学文献出版社, 2012. 12

ISBN 978-7-5097-4083-5

I. ①中… II. ①陈… III. ①企业责任-研究报告-中国-2012-日文
IV. ①F279.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2012) 第 298575 号

企業社会責任ブルーブック(日本語特別版) 中国企業社会責任研究報告 2012

中国社会科学院社会責任研究センター

陳佳貴 黃群慧 彭華崗 鍾宏武 等 / 著作

張 蕙 孫孝文 許英傑 李國祥 等 / データ分析

発行人: 謝寿光

出版者: 社会科学文献出版社

住所: 北京市西城区北三環中路甲 29 日号院 3 号楼華竜ビル

郵便番号: 100029

日本語版発売所: 一般社団法人アジアコミュニケーション研究所

住所: 〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-22-17TOC ビル

社会科学文献出版社市場販売センター: +86-10-59367081/59367089

日本語版企画: 株式会社シータス&ゼネラルプレス (CGP)

一般社団法人アジアコミュニケーション研究所 (AIC)

日本語翻訳: 有限会社英峰トランスレーション

日本語版監修: 株式会社シータス&ゼネラルプレス (CGP)

一般社団法人アジアコミュニケーション研究所 (AIC)

読者サービス: (03) 6802-7955、メール: aic.aicinfo@gmail.com

版数: 2012 年 12 月第 1 版

書籍コード: ISBN 978-7-5097-4083-5

定価: 98.00RMB

乱丁本・落丁本はお取替え致します。

©SOCIAL SCIENCES ACADEMIC PRESS (CHINA), Research Center for Corporate Social Responsibility Chinese Academy of Social Sciences, Asia Institute of Communication

本書の全部または一部を無断で複製することは著作権法上での例外を除き禁じられています。

中国社会科学院 社会発展戦略研究院について

社会発展戦略研究院は、今日の中国社会の経済全体の発展の核心議題に歩調を合わせ、3つの側面から社会発展の諸問題の研究を行う。第一はマクロ的な視点と全体性に着目し、社会発展を研究する。第二は社会構成からミクロの部分、つまり市民団体、地域コミュニティおよび組織の秩序を基礎として社会発展の研究を行う。第三は社会構造のモデル転換と歴史の関連付けから社会発展の研究を行う。

社会発展戦略研究院は、オープンな研究姿勢、開放精神を研究院の基本として、小さな学界団体から大学学術コミュニティまでの相互協力研究構想を提唱し、学科の建設から、科学研究の管理、人材の適用、外国との協力、行政の運営など各面の改革と革新を行う。

社会発展戦略研究院は、発展戦略と政策の研究室を設置して、社会の建設と管理の研究室、組織構造と制度変遷の研究室、公共サービスと社会責任の研究室および総合オフィスを設置し、研究を行う。



中国社会科学院経済学部 「企業社会責任 (CRS) 研究センター」について

「企業社会責任 (CRS) 研究センター」(以下「センター」という)は2008年2月に設立された、中国社会科学院経済学部が管轄する非営利学術研究機関である。

センター理事長は、全国人民代表大会常務委員、中国社会科学院経済学部主任の陳佳貴で、センター常務理事長は、中国科学院研究局局長彭華崗博士、センター常務副理事長は、中国科学院工業経済研究所書記黄郡慧、中国社会科学院社会発展戦略研究院鍾宏武副研究員が主任を担任している。センター理事には、中国社会科学院、国務院国有資産監督管理委員会、人力資源と社会保障部、中国企業連合会、人民大学、国内外大手企業などから数十名の専門家や学者が就任している。

センターの使命は、中国の特色あるCSRの理論的システムを構築することであり、研究者、推進者、観察者として、積極的に研究と実践を促進するものである。

- 研究者として：当センターは企業の社会責任論の革新を使命とし、企業の社会責任論の中心として、積極的に企業の社会責任のシステム理論を研究、遂行し、「中国企業社会責任報告書編集ガイドライン (CASS-CSR1.0/2.0)」を公表し、「企業社会責任ライブラリ」を出版、中国の特性を促進するための企業社会責任 (CSR) の理論体系の形成と発展を担うものである。
- 推進者として：政府部門、社会团体、企業などの様々な組織に対して、社会責任を適用する際の問題を解決するために助言や提言を行い、支援するために「企業社会責任の研究拠点」を建設する。また、中国社会科学院、大学院において、社会責任の研修を必須とするCSRのMBAを開設して、企業の社会責任に関する共同研究を行うとともに、様々な議論を交し、交流活動に参加する団体に対して、理論的な知識と実務経験を広めるための活動を促進する。
- 観察者として：センターでは、毎年恒例となった「中国企業社会責任 (CSR) ブルーブック」を出版し、その年のCSRの理論と実践の最新の進捗状況に関する実績を公開している。また、「中国企業社会責任開発指数報告書」を発表し、CSRの開発の研究を記録している。発展段階の特徴を設定、公開し「企業社会責任報告書の評価」を推進している。

中国社会科学院経済学部 企業社会責任 (CRS) 研究センター

2012年12月

電話番号：+86-10-60537905 ファックス：+86-10-58246998

ウェブサイト：www.cass-csr.org E-mail：csr@cass-csr.org

住所：北京市崇文門新怡家園1号ビル3ユニット1303室 (100062)

研究業績

専門著作

- 彭華崗、鍾宏武、張蕙、孫孝文：「中国企業社会責任報告編集ガイドライン」(CASS-CSR 2.0/1.0)，監修：陳佳貴等。「中国企業社会責任」ライブラリシリーズに収録。出版：经济管理出版社 2011 年
- 彭華崗、楚序平、鍾宏武、張蕙：「企業社会責任管理体系研究」，監修：陳佳貴等。「中国企業社会責任」ライブラリシリーズに収録。出版：经济管理出版社 2011 年
- 鍾宏武、張唐楨、田瑾、李玉華：「政府と企業社会責任」，監修：陳佳貴等。「中国企業社会責任」ライブラリシリーズに収録。出版：经济管理出版社 2010 年
- 鍾宏武：「慈善寄付と企業業績」，经济管理出版社 2007 年
- 彭華崗、鍾宏武：「責任分担—中国社会科学院研究生院企業社会責任指定テキスト」。出版：经济管理出版社 2011 年
- 陳佳貴、黃群慧、彭華崗、鍾宏武：「企業社会責任藍皮書（ブルーブック）（2009/2010/2011）」，出版：社会科学文献出版社、2009/2010/2011 年
- 鍾宏武、張蕙、翟利峰：「中国企業社会責任報告ホワイトペーパー（2011）」監修：陳佳貴等。「中国企業社会責任」ライブラリシリーズに収録。出版：经济管理出版社 2011 年
- 鍾宏武、張旺、張蕙：「中国上場企業非財務情報公開報告（2011）」。出版：社会科学文献出版社、2011 年
- 鍾宏武、張蕙、張唐楨、孫孝文：「中国企業社会責任發展指數報告」，監修：陳佳貴等。「中国企業社会責任」ライブラリシリーズに収録。出版：经济管理出版社 2009 年

論文

「經濟研究」、「中国工業經濟」、「人民日報」、「国企」等新聞、雜誌にて論文數十篇を發表

研究プロジェクト

- 北京市国資委：「北京市管轄国有企業の社会責任研究」，2012年5月-12月
- 中国社会科学院経済学部、中国消費者協会、ロレアル（中国）「持続可能な消費ブルーブック」，2012年5月-12月
- 中国扶貧基金会：「海外における中国資本企業の公益行為研究」，2012年10月-2013年10月
- 国資委研究局、中国社科院経済学部企業社会責任研究センター：「企業社会責任推進メカニズム研究」，（課題負責者：彭華崗），2010年1月-2010年12月
- 中国国家科技支援プログラム課題研究：「リスク管理、社会責任の国際ガイドライン リスクコントロールおよび社会責任評価のサブミッション」，2010年1月-2010年12月；
- 深セン証券取引所、中国社科院経済学部企業社会責任研究センター：「上場企業社会責任情報公開」，（課題負責者：鍾宏武），2009年3月-2009年12月
- 中国工業經濟聯合會、中国社科院経済学部企業社会責任研究センター：工信部制定「企業の社会責任の建設を促進するためのガイダンス」前期研究成果，2009年10月-2009年12月
- 中国社会科学院委託研究課題：「復興と企業の社会責任」，（課題負責者：韓朝華），2008年8月-2009年8月
- 中国社会科学院研究課題：「海外中国資本企業の社会責任」（課題負責者：鍾宏武），2007年6月-2008年6月
- 国資委課題研究：「中央企業社会責任理論研究」（課題負責人：彭華崗），2007年4月-2007年8月

主な監修者のプロフィール

陳佳貴

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究中心センター」理事長。

1944 年 10 月生まれ。男性、漢族、四川岳池人、中国共産党党员。1988 年中国社会科学院の大学院工業経済学部卒業。博士。元中国社会科学院副院長、研究員、博士課程学生の指導教官、中国社会科学院経済学部主任、学部委員、第十期、第十一期全国人民代表大会委員、財政経済委員会委員。中国企業管理研究会会長兼任、中国工業経済連合總會副会長、國務院学位委員会学科応用経済学科評議リーダー、全国社会科学基金理論經濟評審チーム副組長。研究領域は工業経済、企業管理。1991 年國務院学位委員会、国家教育委員会に「際立った貢献がある中国博士」の称号を授与される。1992 年人事部に「卓越した貢献がある中青年専門家」として認定される。1993 年國務院が給付する政府特別手当を受給。

黄群慧

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究中心センター」常務副理事長。

1966 年 8 月生まれ。男性、漢族、河北省石家荘人。1986 年河北科学技術大学卒業、1991 年華中科学技術大学卒業、1999 年中国社会科学院大学院卒業。工学学士、工学修士、管理学博士の学位を取得。

現在、中国社会科学院工業経済研究所党書記、研究員、教授、博士課程学生の指導教官を務める。國務院の政府特別手当を受給。中国企業管理研究会常務副理事長、中国社会科学院管理科学研究センター副主任。その他多くの大学の教授を兼任する。

研究領域は産業経済と企業管理。前後して国家の社会科学基金研究プロジェクト、国家の自然科学基金プロジェクト、中国社会科学院の重点プロジェクトなど多くのプロジェクトに関与。「中国の社会科学」、「経済研究」などの学術刊行物に百数編の論文を発表して、単独の著作及び執筆に参加している著作物が 10 余りある。

第 12 期孫冶方経済科学賞、第 2 期蔣一葦企業改革と発展の学術基金優秀専門書賞、第 3 期蔣一葦企業改革と発展の学術基金優秀論文賞、第十四回国家図書賞、中国社会科学院優秀科学研究成果三等獎などを受賞。

彭華崗

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究中心センター」副理事長。

1962 年 11 月生まれ。男性、漢族、江蘇溧陽の出身、経済学博士。前後して北京鋼鉄学院、吉林大学卒業。国務院国有資産監督管理委員会研究局局长、国務院国資委業界協会連絡事務室主任、高級エコノミスト。

長期にわたり企業管理と経済政策の研究に従事している。首鋼総公司党委員会研究室副主任、党委員会組織部副部長、首鋼総公司試験審査委员会主任を歴任。

1997 年国家机关に入り国家経済貿易委員会の政策法規の司政策を務めた後、長期にわたり様々な研究室の副主任として研究。国務院国有資産監督管理委員会研究室副主任。2005 年国資委研究室主任に就任。2008 年より国資委研究局局长に職務が変わる。国資委が主催する A ランクのプロジェクトの「中央企業の社会責任の理論研究」、「企業の社会責任の構造研究の推進」などのプロジェクト。中国社会科学院大学院教授に特別招請、中国社会科学院大学院 MBA「企業の社会責任」課程首席専門家。

鍾宏武

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究中心センター」主任。

1977 年生まれ。男性、四川省簡陽人。中国社会科学院大学院工業経済学部を卒業後、管理学博士、副研究員。

2007 年、日立奨学金を受けて、日本の三井物産戦略研究所にて半年間、日本企業の社会責任を研究。前後して、南アフリカ、イギリス、スウェーデン、台湾など国家と地域を訪問し、企業社会責任を研究。「企業の社会責任の推進メカニズム研究」(国資委のプロジェクト) 主宰、「上場企業社会責任の情報公開」(深圳証券取引所とセンターの共同プロジェクト)。

「中国企業社会責任報告編集ガイドライン (CASS-CSR 1.0/2.0)」、「中国企業社会責任報告ホワイトペーパー (2011)」、「企業社会責任管理体系」、「政府と企業の社会責任：国際経験と中国の実践」など専門著作。「経済研究」、「中国工業経済」、「人民日報」などの新聞、雑誌に学術論文を 50 数編発表している。

張 蕙

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究センター」常務副主任、中国社会科学院社会発展戦略研究院助理研究員。

1982 年生まれ、女性、管理学博士。主著「大企業の社会責任の推進メカニズム研究」、「上場企業の社会責任と情報公開」、「大企業の社会責任の研究」、「企業の社会責任指標体系の研究」、重要プロジェクトの研究に参加。共著「中国企業の社会責任の発展指数報告」(2009)、「中国企業社会責任報告編集ガイドライン (CASS - CSR2.0)」、「企業社会責任管理体系の研究」、「中国企業社会責任報告ホワイトペーパー (2011)」、「中国上場企業の非財務情報公開研究報告 2011」など。その他「中国工業経済」、「経済管理」などの定期刊行物に社会責任の関連論文を発表している。

孫孝文

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究センター」主任補佐、正徳至遠 (北京) コンサルタント有限公司社長。

1981 年生れ、男性、山東臨沂人。「大企業の社会責任の推進メカニズム研究」、「上場企業の社会責任と情報公開」、「企業の社会責任指標体系の研究」など、重要プロジェクトの研究に参加。「中国企業社会責任ブルーブック」、「中国企業社会責任報告編集ガイドライン」などの監修に参加。中国移动通信、中国石油化工、華潤グループ、北方工業グループ、新興際華、中国电信、中国民生銀行、中国農業発展グループ有限公司、チャイナサムスン、中国備蓄綿管理総公司など 20 数社の企業のコンサルタントを務める。

許英傑

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究センター」研究補佐。

1986 年生れ、男性、河南鹿邑人、管理学博士。「大企業の社会責任の推進メカニズム研究」、「中国企業の社会責任の研究報告」、「工業大国の国情と工業近代化戦略」など多くの企業の社会責任領域に関するテーマの研究に参加。

李国祥

中国社会科学院経済学部「企業社会責任 (CSR) 研究センター」研究補佐。

1987 年生れ、男性、山東イ坊人、経済学修士。「中国企業社会責任ブルーブック 2011」、「中国上場企業の非財務情報公開研究報告 2011」、「中国企業社会責任報告ホワイトペーパー (2011)」など、社会責任に関する論考の編集とデータ解析作業に参加。

日本語特別版出版にあたって

中国のCSR研究の始まりは2006年で、和諧社会の建設と科学的発展観の指導のもとに、CSRの研究と普及が急速に発展し、今や中国は新たなCSRの時代に入ろうとしています。多くの企業がCSR作業委員会を創立し、CSRを推進するプロセスを明確にし、専門組織と責任担当者を設置しました。中にはCSRの専門研究部門を設立した企業もあります。企業は、CSRの理念を企業の使命とし、戦略を日常的な運営にまで浸透させ、積極的にCSRレポートを発行して、ステークホルダーとのコミュニケーション強化に努めてきました。2011年、中国企業のCSRレポートの発行点数は1001部に達し、2006年に比べて30倍の増加となりました。

中国社会科学院経済学部企業社会責任研究センター(CSR研究センター)は、中国のCSRの管理と実践を更に着実に研究、観察、推進するために、2009年から毎年「企業社会責任研究ブルーブック」と中国100強企業の社会責任発展指数を統計し公表しています。プロジェクト研究チームは、社会の公のルートから企業社会および環境に関する情報を収集し、中国国有100強企業、民営100強企業、そして外資系100強企業の社会責任管理の状況と社会責任情報公開のレベルと評価を行ってきました。「企業社会責任研究ブルーブック」を発表した後に、企業責任研究の理論界、メディア、公衆に広範な関心を引き起こし、国内外の企業のCSR管理体系の構築および発展に大きな推進役となり、CSRの情報公開のレベルを高めました。

日本は中国よりも先行して、2003年が日本のCSR元年とも言われています。以来、長年のCSR研究と実践を経て、日本国内において日本企業は、この「舶来品」であるCSRをみごとに日本企業の価値観や企業理念と統合させて、企業戦略、組織と実践を融合することに成功しました。いわば「日本の特色」のCSRを形成し、発展の道に乗せることに成功したのです。しかし、中国においては、日本企業をはじめ外資系企業は、中国でのCSR管理と実践、情報公開のレベルにおいて、楽観的な状況にはありません。2012年の「企業社会責任研究ブルーブック」の統計を見ると、外資系企業の社会責任の発展指数の平均スコア(13.2点)は中国の民営企業(15.2点)や中国国有企業(40.9点)よりも低い状態にあります。

もちろん、すべての外資系企業が低いというわけではありません。一部の日本企業は中国でのCSRの取組みを高め、積極的に中国の現地対応に乗り出しています。例えば2011年、ソニー(中国)は中国の外資系企業の先頭に立って、「中国企業社会責任報告編集ガイドライン CASS-CSR2.0」をCSRレポート編集のガイドラインとして採用し、このガイドラインを採用する初の外資系企業となりました。2012年、キャノン(中国)は、中国の外資系企業の先頭に立って、中国企業社会責任報告専門家評級委員会によるCSRレポートの評級(第三者保証)を申請した初の外資系企業となりました。キャノンのCSRレポートは、外資系企業としてはじめての「三つ星」の成績を獲得しました。

中国と日本の CSR の研究と交流をさらに推進するため、一般社団法人アジアコミュニケーション研究所と株式会社シータス&ゼネラルプレスのご支援のもとで、私達は 2012 年の「企業社会責任研究ブルーブック」の主要な内容を日本語に翻訳し、さらに 2010 年、2011 年の企業社会責任発展指数の統計データと一部の革新の研究論文を収録し、「日本語特別版」として、日本で発行することになりました。これを機に、日本の各界の中国の CSR に対する認識と理解が高まることを望みます。中日の CSR の交流を推進し、お互いの気持ちを疎通させ、日本企業の中国における責任管理と情報公開のレベルが高まることを希望します。

ご拝読に感謝

中国社会科学院経済学部企業社会責任研究センター

主任

鐘宏武

2012 年 12 月

目 次

中国社会科学院社会発展戦略研究院について	I
中国社会科学院経済学部 「企業社会責任 (CSR) 研究センター」について	II
研究業績	III
主な監修者のプロフィール	V
日本語特別版出版にあたって	VIII

I 総論編

第1章 研究方法と研究ロードマップ	2
第2章 評価結果	14
第3章 卓越者とリーダー者 (32 社)	18
第4章 追走者 (42 社)	21
第5章 初歩者 (41 社)	24
第6章 傍観者 (185 社)	27
第7章 中国 100 強企業の社会責任発展段階の特徴	31

II 指数編

第1章 中国民営 100 強企業の社会責任発展指数 (2012)	38
第2章 中国の外資系 100 強企業の社会責任発展指数 (2012)	46
第3章 ピックアップ業界指数	54
第4章 中国 100 強企業のオフィシャル CSR サイト発展指数 (2010)	69

III テーマ研究編

第1章 企業の社会責任に関するネガティブ情報公開の戦略態勢	100
第2章 企業の社会責任に関するネガティブ情報公開戦略の態勢の実証	121
第3章 企業の社会責任に関するネガティブ情報公開：法規の誘導から管理へ	132

IV データ編

付録 1	中国 300 強企業の社会責任発展指数 (2010)	138
付録 2	中国 100 強企業オフィシャル CSR サイト発展指数 (2010)	149
付録 3	中国 300 強企業の社会責任発展指数 (2011)	161
付録 4	中国国有 100 強企業の社会責任発展指数 (2011)	172
付録 5	中国民営 100 強企業の社会責任発展指数 (2011)	176
付録 6	中国外資系 100 強企業の社会責任発展指数 (2011)	179
付録 7	中国 300 強企業の社会責任発展指数 (2012)	183
付録 8	中国民営 100 強企業の社会責任発展指数 (2012)	195
付録 9	中国外資系 100 強企業の社会責任発展指数 (2012)	198
付録 10	CASS-CSR2.0 ガイドラインの共通指標リスト	202

あとがき	205
------------	-----

I 総論編

第1章 研究方法と研究ロードマップ

第2章 評価結果

第3章 卓越者とリーダー者 (32 社)

第4章 追走者 (42 社)

第5章 初歩者 (41 社)

第6章 傍観者 (185 社)

第7章 中国 100 強企業の社会責任発展段階の特徴

第1章 研究方法と研究ロードマップ

外部評価は、企業の社会的責任の発展を促すための大きな要因となりえる。

中国社会科学院経済学部企業社会責任研究中心（以下 CSR 研究センターと略す）は、2009 年以来、3 年続けて「中国 100 強企業の社会責任発展指数」を発表してきた。この「指数」は、国際標準となっている社会的責任の理論と評価方法をベースに、中国の実情に合わせて設定したものである。（訳注：「100 強企業」は、「ベスト 100 企業」の意味）

中国企業のその年度の社会的責任の現状と情報公開レベルを、「責任管理」、「市場責任」、「社会責任」、「環境責任」という 4 つの側面から評価分析し、さらに、それらの発展段階ごとの特徴を分析した。これは、中国の企業の社会的責任を研究するための参考基準となるデータを提供するものである。

2012 年、CSR 研究センターは、引き続き中国の国有 100 強企業、民営 100 強企業と外資系 100 強企業の社会的責任水準がどれだけ向上したかの評価を行なった。2011-2012 年度の発展の傾向を見ながら、極力正確を期して、我が国の企業の社会的責任の発展段階を判断した。これにより、中国企業の社会的責任の水準が一層高まり、その発展が加速するように努めていきたい。

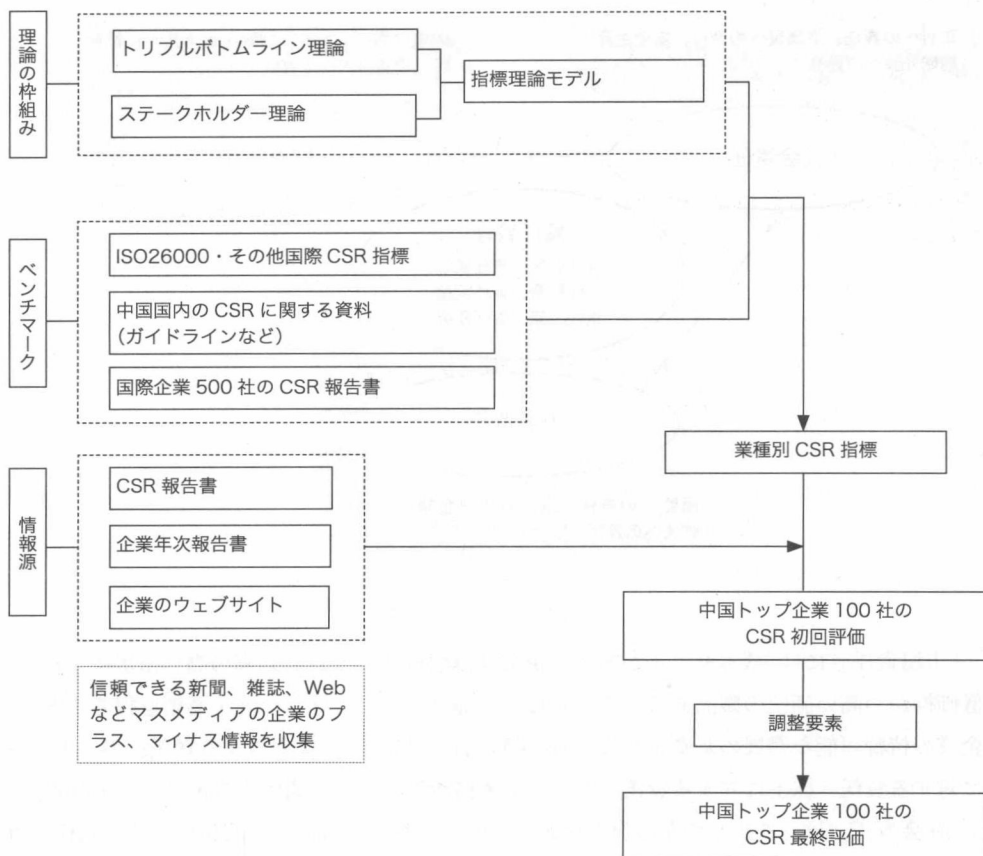
「中国 100 強企業の社会責任発展指数(2012)」は、企業の社会的責任の管理体系に対して、情報公開レベルを設定して、現状を総合指数で評価するもので、その研究ロードマップは次の通りである。

- ・ 責任管理に続く、市場責任、社会責任、環境責任の「4 位一体」を理論モデルとする。
- ・ ISO26000 などの国際社会的責任指数、国内の社会的責任提唱資料と世界 500 強企業の社会的責任レポートの指標、業界業種ごとの社会的責任指標体系を参考にしながら、理論的整合性を図る。
- ・ 続いて国有 100 強企業、民営 100 強企業、外資系 100 強企業の 2011-2012 年度の CSR レポート、アニュアルレポート、オフィシャルサイトから、社会的責任の情報を収集する。
- ・ 最後に企業の社会的責任情報の内容分析と定量評価を行なう。

ここから、企業の社会責任発展指数の基本スコアを得て、基本スコアに対して、受賞、過失責任、責任管理の革新性などの調整点で加減^{*1}を行ない、「指数」の最終スコアと順位を決定する。（図 1-1 参照）

^{*1} ネガティブ情報の出所は人民ネット、新華ネットなどの権威のあるメディアと政府関係のウェブサイトを含む。

図 1-1 「中国 100 強企業の社会責任発展指数」の研究ロードマップ



1.1 理論モデル

当研究は、引き続き「責任管理」、「市場責任」、「社会責任」、「環境責任」の「4 位一体」の理論モデル（図 1-2 参照）を採用する。「責任管理」は、本モデルの核心であり、すべての企業の社会的責任の実践の原点である。

「責任管理」の中には、企業戦略に関する責任、ガバナンスに関する責任、意思疎通に関する責任（責任融合）、業績に関する責任、交流に関する責任と、調査研究に関する責任が含まれる。